

以前本稿で、中国では「工匠精神」(職人精神)という言葉が流行していることや、爆買いに象徴される「モノ」の消費から、体験、教養などの「コト」に関心を持っている中国人が増えていることをお伝えしました。

その流れにあわせて、今年1月に在上海日本国領事館と北九州市上海事務所が共同で「北九州市・日本文化体験交流会」を開催しました。本稿では、その模様と、その後の本市認定の「技の達人」の中国での販路開拓の取組を2回にわたってお伝えします。

平成29年4月17日

【第13回】「北九州市・日本文化体験交流会」@在上海日本国領事館について

【今日のポイント】

- ◆「北九州市・日本文化体験交流会」は、書道と、日本文化体験の王道である茶道体験の「日本文化体験」の部と、本市認定の「技の達人」による「伝統工芸体験・プレゼンテーション」の部の2部構成で実施。
- ◆領事館での自治体初の複合型文化体験イベントだったため、集客が危惧されたが、定員の倍近い122名を集める大盛況だった。このイベントを通じて、中国人の中には「日本文化」「体験」を求めている層が確実に存在することを実感。
- ◆今回のイベントをきっかけに、実際の販路開拓にいかにつなげていかを考えるのが、上海事務所の次のミッション。

1 茶道体験、書道の「日本文化体験」の部について

早稲田大学大学院（ひびきのキャンパス）出身の周洪氏と、若松区在住の書道家・篆刻家 師村妙石氏の協力を得て、茶道と書道の体験を通じた日本文化の紹介を行いました。本事業を担当した領事からは「複数の文化を組み合わせた今回のような手法はこれまで前例がなく、日本人の職人による実演など、最近増えている「体験」を求める中国人のニーズを掴んだ好企画」という高い評価をいただきました。



師村氏には、書道を通じた、日中のつながりの深さについて講演していただきました



早稲田大大学院（ひびきの）元留学生の周洪氏（NGO千匠文化センター理事）が茶道体験の部を仕切ってくれました。

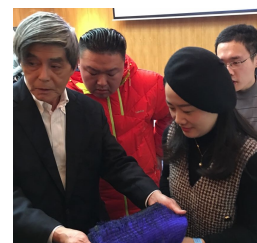
2 北九州「技の達人」による「伝統工芸体験・プレゼンテーション」の部について

「北九州技の達人」の中から、日本で唯一の大相撲化粧まわしの手織り職人である大野浩邦氏と、建具の最高峰の技術である組子(クミコ)職人の村本裕作氏が、それぞれの作品のプレゼンテーションを行いました。

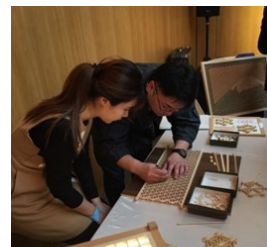
大野氏は、絹織物技術をさらに昇華させ、特許を取得した「ランダム布」を発表。金糸で作ったストールは、大人気で、1枚約20万円のストールを試着し、「今すぐ買いたい」という女性や、大野氏の生地を新築する家のカーテンに使いたいという実業家も出るほどでした。



大野氏は、今回の交流会に合わせて作成した紹介映像や現物を使い、大相撲の化粧まわしの歴史や工程を紹介しました。独自開発の特許製品「ランダム布」への関心も高く、購入希望者があつとを絶ちませんでした。



また、村本氏は、組子の幾何学模様に入れられた意味や、中国との歴史的なつながりについて語りました。その後の組子体験では、参加希望者が列をなし、実際の体験を通して、改めて作品の精巧さと美しさに驚いていました。



村本氏は、全国で50人程度になった「組子」職人としての心構えとともに、「組子」を現代人の生活に取り入れるための独自ブランド「小倉組子」について説明。体験コーナーでは、「組子」技術の繊細さをアピールしました。